松山市船舶運航事業経営戦略　概要

①経営の基本方針

【基本方針】

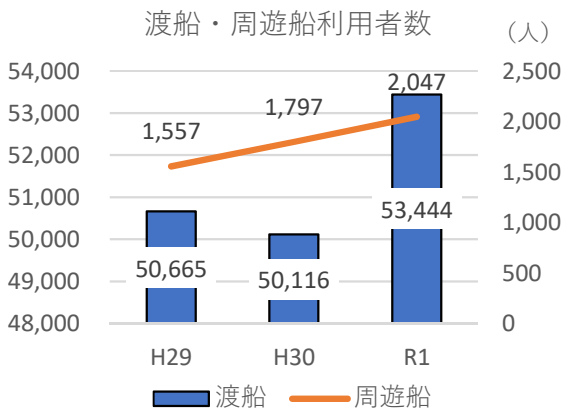
１．瀬戸内海国立公園の公共交通として、安全な運航に努めます。

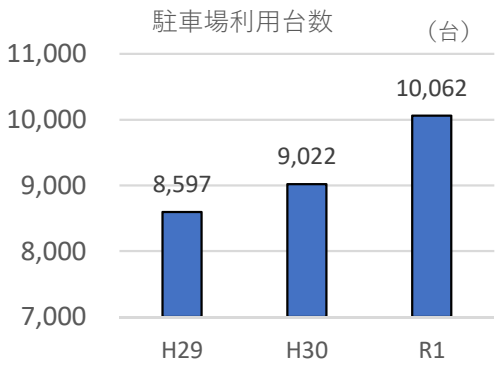
２．観光用渡船として、本市の観光事業の振興に貢献していきます。

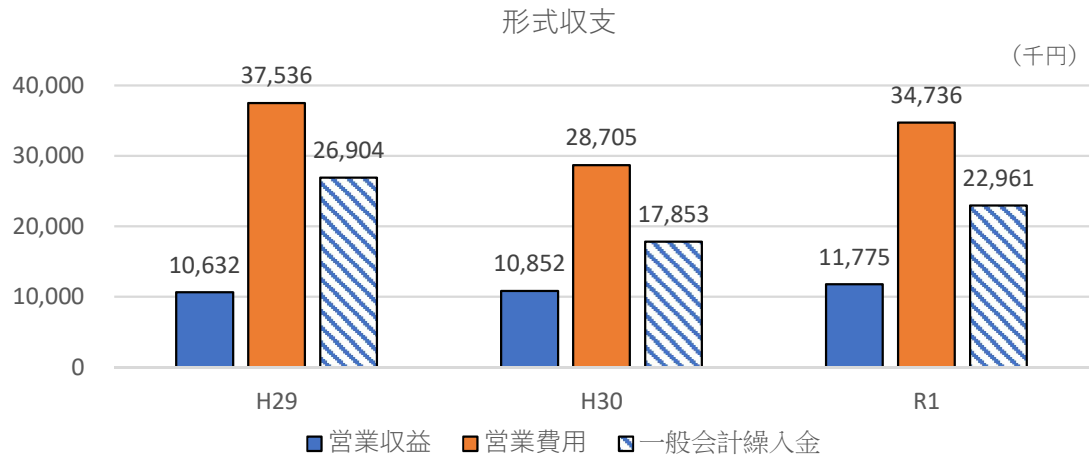
②経営の状況について

船舶運航事業の平成２９年度から令和元年度までの利用者や形式収支の推移は以下の表のとおりです。

渡船の利用者数は年間5万人以上で推移しており、形式収支は、営業収益以上に営業費用が必要なため、その差額を一般会計から繰り入れています。







③利用者数の予測

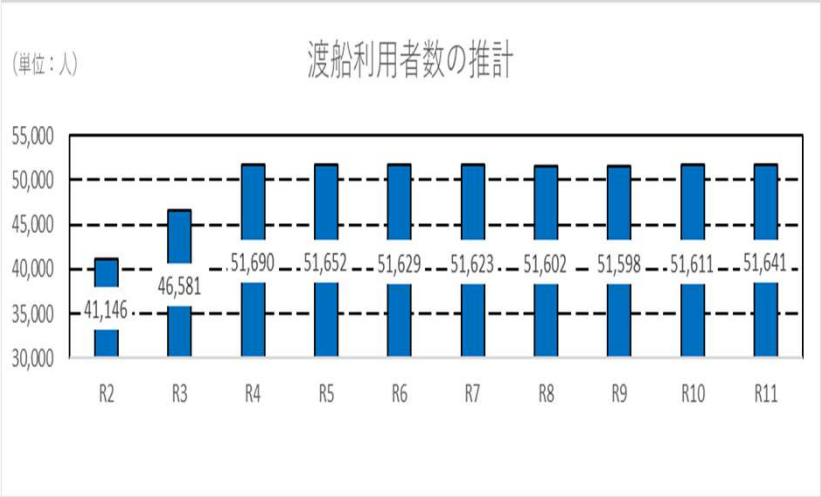
１．平成30年度に実施した利用者アンケートの結果から、全利用者の63％を市内在住者、残り37％を市外から訪れた観光客と推定します。

２．令和元年度の外国人利用者は、全利用者の約2％であったため、１．の市外観光客37％のうち、2％を外国人利用者、残り35％を日本人観光客と推定します。

３．国内と松山市の将来推計人口（社人研）及びインバウンド推計（観光庁）から、向こう10年間の利用者数を推定します。

４．令和2年度は、市外から訪れた観光客及び市内在住者の利用を80％（令和2年度月別実績により試算）、外国人利用者を0％として、３．に掛け合わせて利用者数を推定しています。

５．令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなると見込み、令和4年度以降には、過去5年間（平成27年度～令和元年度）の平均値への回復を見込んでいます。
また、誘客促進策を継続して実施することで、外国人利用者やアウトドアの利用者が微増するものとして推定しています。

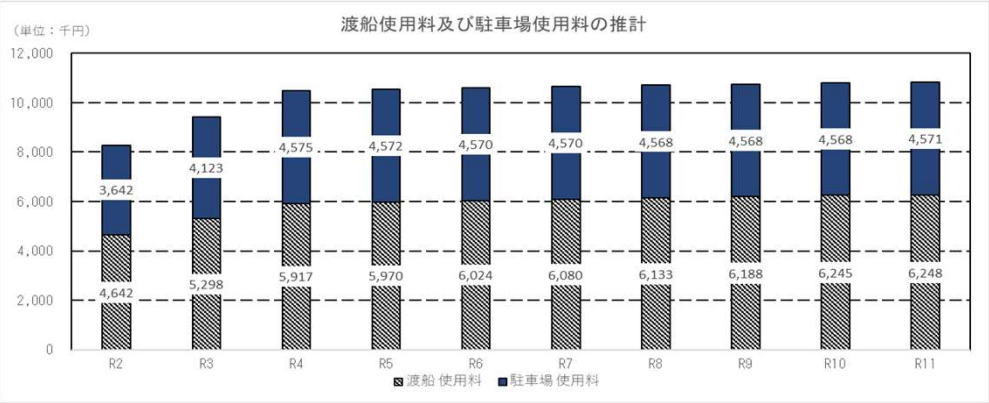


松山市船舶運航事業経営戦略　概要

④料金収入の予測

本事業の使用料収入は、「渡船使用料（周遊船を含む。）」及び「駐車場使用料」で構成されています。

渡船使用料及び駐車場使用料は、「③利用者数の予測」と同じ考え方で予測しています。



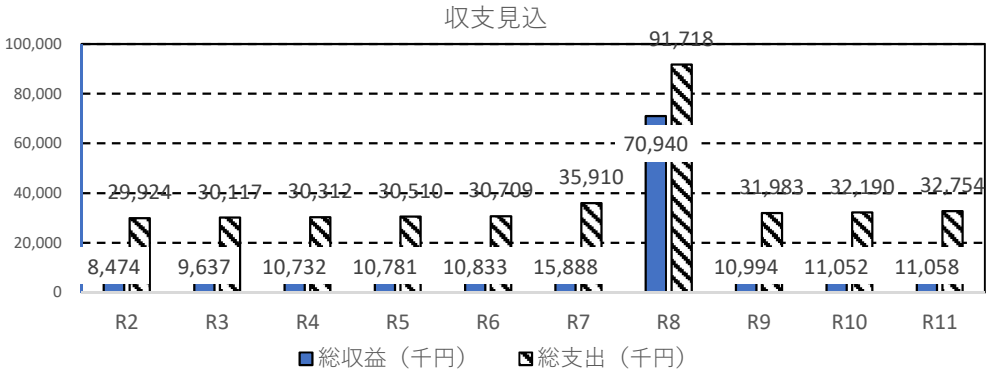
⑤収支の予測

令和2年度から令和11年度までの収支見込みについては、下記のとおりです。

新型コロナウイルスの影響により、令和2年度は利用者数が対前年比23％減となり収支差額が約21,449千円まで膨らむ見込みとなっています。令和4年度以降は、渡船利用者の回復を見込み、過去5年間の平均値まで収支幅が縮小する見込みです。

また、令和7年度に新造船の設計委託（約5,000千円）、新造船建造費用（約60,000千円）を予定しているため、支出額が増加する見込みです。

なお、新造船に関する費用は企業債を活用して調達する見込みです。



⑥船舶更新時期の見通し

就航期間	年数	船名	総トン数	定員	船質
昭和55(1980)年　～　平成8(1996)年	17年	第12かしま	19トン	55名	鋼
昭和58(1983)年　～　平成12(2000)年	18年	第13かしま	15トン	55名	鋼
平成８(1996)年　～　現在就航中	24年	花へんろ	18トン	62名	鋼
平成12(2000)年　～　現在就航中	20年	かしま	18トン	48名	FRP

船体やエンジン等の主要部品の老朽化が進んでいますが、近年の修理技術の進化に伴い、定期的な点検や修繕を適切に行うことで長寿命化が図られていることを踏まえ、船舶の使用期間を30年間とします。

今後の計画としては、これまで同様に毎年の船舶検査や修繕を適切に実施し、船舶の安全性を確保した上で運航を行います。不定期航路の周遊船「花へんろ」については、減価償却を含めた収支や安全性を考慮の上、建造から30年が経過する令和８年度頃を目途に更新を検討します。なお、船舶の建造に当たっては、これまでの運航実績や利用頻度に合わせ定員数を削減し、建造費の圧縮に努めます。

⑦今後の経営改善戦略

船舶運航事業の経営改善に向け、以下の取組を行い、経費節減と鹿島への誘客に努めます。

≪経費節減策≫

・繁忙期、閑散期や利用者の乗船状況に応じた運航ダイヤの見直し

≪鹿島への誘客策≫

・豊かな自然環境などを活かしキャンプやバーベキューといったアウトドア利用者などの更なる誘客
・鹿島を含めた「新たな観光ルート・旅行商品」の造成
・SNS、WEB等を活用した情報発信
・近隣の誘客施設と連携した地域活性化